



TITLE:

# 支那經濟思想ノ出發點(一)(儒家及 ビ道家ノ欲望論)

AUTHOR(S):

小島, 祐馬

---

CITATION:

小島, 祐馬. 支那經濟思想ノ出發點(一)(儒家及ビ道家ノ欲望論). 經濟論  
叢 1917, 4(3): 341-363

ISSUE DATE:

1917-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127181>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號三第 卷四第

行發日一月三年六正大

## 論說

資本

文學博士

內田銀藏

植民地ノ分類ニ就キテ

法文學士

山本美越乃

支那經濟思想ノ出發點(一)

體質廢頽問題(二)

法學博士

小島祐馬

經濟心理學ノ組織的研究(三)

## 時事問題

米田庄太郎

取引所増資問題

法學博士

戸田海市

米獨斷交ト我經濟界

法學博士

小川郷太郎

毛羊問題

法學博士

神戸正雄

## 雜錄

經濟雜話(九)

法學博士

田島錦治

米國鐵道從業者八時間勞動問題

法學士

河田嗣郎

露西亞ノ國民經濟ニ於ケル歐洲的要素

法學士

米田庄太郎

維新後ノ戶數ト人口トノ關係

法學士

本庄榮治郎

あゝのるど・といんびート經濟書

商學士

武藤長藏

佛蘭西財政及經濟學者バリーユー逝ク

法學博士

神戸正雄

新著紹介

# 支那經濟思想ノ出發點（二）

（儒家及び道家ノ欲望論）

小島 祐馬

## 一 序 論

一 四千年ノ文化ヲ有スル支那ニ於イテ、今日マデ自然科學ガ發達セズ、又機械ノ發明ガ無ク、其レヨリモ餘程若キ文化ヲ有スル西洋諸國ニ比シ、物質的文化ノ著シク進マナカッタ事ハ、何人モ齊シク奇異ノ感ヲ懷ク所デアルガ、其ノ主ナル原因ハ、一言ニシテ蔽ヘバ畢竟支那ノ學者ノ經濟ニ關スル觀念ガ、西洋輓近ノ經濟思想ト出立點ヲ異ニシテ居ルガ爲メデアルト言ヘヤウト思フ。詳シク言ヘバ人類ノ經濟的欲望ノ取扱方ガ、東西全ク其ノ趣ヲ異ニシテ居ル所爲デアラウト思フ。西洋デハ此ノ頃デコン經濟的欲望ニ關シテ正シキ欲望デナクテハナラヌナドト云フ説モ出テ來タノデアルガ、元來西洋ニ於イテ物質的文化ヲ發達セシメタ根本原因ト謂フベキハ、欲望ノ正邪善惡ヲ問ハズ、之ヲ際限ナキ儘ニ放置シ、或ハ努メテ之ヲ増長セシメ、而シテ其ノ際限ナキ欲望ニ満足ヲ與フベキ財物ヲ生産セント力メタル點ニ存スルト思フ。之ニ反シ、支那ニ在リテハ財物ノ増殖ニ手ヲ着ケンヨリハ、寧ロ壓クナキ欲望ヲ制限シテ之ニ因リテ満足ヲ贏チ得ントスルノデア

ツタ。サレバ支那ノ學者ニ取リテハ、如何ニシテ財物ヲ生産センカト云フコトヨリモ、如何ニシテ欲望ヲ制限センカト云フコトガ主要ノ問題デアツテ、又時ニ生産ニ就イテ論ズル場合ガアツテモ、ソレハ既ニ制限サレタル欲望ヲ滿タスダケノ財物、即チ最少限度ノ必要品ノ生産ヲ論ズルノガ常デアツテ、生産ニヨリテ益々欲望ヲ増長セシメ、之ニ因リテ更ニ生産ヲ促サンナドトハ、固ヨリ其ノ夢想ダモセザリシ所デアル。

二 尤モ斯ク言ヘバトテ支那ニハ西洋ノ經濟思想ノ如キモノガ絶無デアツタト云フノデハナイ。漢ノ史家司馬遷ノ如キハ、一般ノ支那經濟思想トハ餘程變ツタ意見ヲ持シテ居ツタ。司馬遷ハ元來後ニ述ブル所ノ老子ノ學ヲ修メタ人デアルガ、老子ノ謂フ如キ理想的社會ハ到底今日ニハ實現シ難ク、社會ノ進歩スルト共ニ人類ノ欲望ハ益々増進スルモノナリトシ、『夫レ神農以前ハ吾レ知ラズ、詩書述ブル所ノ虞夏以來ノ若キニ至ツテハ、耳目ハ聲色ノ好ヲ極メント欲シ、口ハ芻豢ノ味ヲ窮メント欲シ、身ハ逸樂ニ安ンジテ、心ハ勢能ノ榮ニ誇矜ス、俗ノ民ヲ漸セシムルコト久シ、戸ゴトニ説クニ妙説ヲ以テスト雖、終ニ化スベカラザルナリ』(註一)ト言ヒ、天下ノ人類ハ皆悉ク自己ノ利欲ノ爲メニ活動スルモノトシテ居ル、即チ賢者ガ廊廟ニ謀議シ、處士巖穴ニ隱居スルモ、畢竟ハ富厚ヲ求メンガ爲メデアル、猛將勇卒城ヲ攻メ陳ヲ陷レ、前ミテ矢石ヲ蒙リ湯火ヲ避ケザルモ、重賞ノ爲メニスルモノデアル、趙女鄭姬形容ヲ設ケ鳴琴ヲ撰ケ、目挑ミ心招キ、老少ヲ擇バザルモ、財利ノ爲メニスルモノデアル、醫方其他技術ニ勵ム人、心ヲ焦シ能ヲ極ムルモ、食糧ヲ得ンガ爲メニスルノデアル、農工商賈固ヨリ富ヲ求メ貨ヲ益サントスル念ニ於イテ前

數者ニ遜ルモノデハナイガ、然モ其ノ境遇ヲ向上セシメ得ザルハ、唯其ノ知能ノ足ラザルガ爲メデアツテ、決シテ力ヲ餘シ財ヲ讓ルトイフ譯ノモノデハナイ、要スルニ『天下熙熙トシテ皆利ノ爲メニ來リ、天下壤壤トシテ皆利ノ爲メニ往ク』(註二)ト言ツテ居ル。而シテ斯ク天下ノ人悉ク自己ノ利欲ヲ中心トシテ奔走スルコトヲ司馬遷ハ如何ニ觀察シタカト云フニ、遷ハ是レ社會經濟上ヨリ觀テ決シテ憂フベキ現象デ無イノミナラズ、之ヲ自然ノ儘ニ放任ジテ置ク方ガ、政教ナドニヨリテ彼是干涉スルヨリモ餘程都合ヨク行クモノトシテ居ル。彼ハ人民ノ被服飲食生ニ奉ジ死ヲ送ルノ資料ガ、如何ニシテ人民ノ需要ヲ充タシツツアルカヲ説キテ次ノ如ク言ツテ居ル、『故ニ農ヲ待ツテ之ヲ食ヒ、虞ニシテ之ヲ出シ、工ニシテ之ヲ成シ、商ニシテ之ヲ通ズ、此レ寧ゾ政教發徵期會アラシヤ、人各其能ニ任ジ、其力ヲ竭シ、以テ其ノ欲スル所ヲ得、故ニ物賤キ之レ貴ヲ徵シ、貴キ之レ賤ヲ徵シ、各其ノ業ヲ勸メ、其ノ事ヲ樂シミ、水ノ下キニ趨クガ若ク、日夜休時ナシ、召カズシテ自ラ來リ、求メズシテ民之ヲ出ス、豈道ノ符スル所ニシテ、自然ノ驗ナルニ非ズヤ』(註三)ト。是レハ個人ノ活動ヲ自由ニ放任スル時、個人ノ利益ハ最ヨク社會公衆ノ利益ト一致スルモノデアルトイフあだむ・すみす以來おるそどつくす派傳來ノ思想ト、符節ヲ合スル如キモノガアル。

然ルニ司馬遷ノ此ノ思想ハ、支那ニ於イテ何人カラモ攻撃ヲ受ケ、一人モ之ヲ祖述スルモノ無カリシノミナラズ、或ハ此ノ說ヲ以テ司馬遷一代ノ缺點ト看做スモノサヘアルニ至ツタ。司馬遷ニ亞イデ出デタル史家班固ハ、全ク司馬遷ト反對ノ見地ニ立ツタ。其ノ說ニヨレバ、古ハ士農工

商四民雜處セズ、故ニ民各其ノ居ニ安ンジ其ノ業ヲ樂シミ、其ノ食ヲ甘シトシ其ノ服ヲ美トシ、奇麗紛華ヲ見ルモ心ヲ移サナイ、『是ヲ以テ欲寡クシテ事節アリ、財足ツテ爭ハズ、是ニ於イテ民ノ上ニ在ル者之ヲ導クニ德ヲ以テシ、之ヲ齊フルニ禮ヲ以テス、故ニ民耻有ツテ且ツ敬シ、義ヲ貴ビテ利ヲ賤シム』(註四) 是レ三代ノ至治ヲ致セル所以デアル。然ルニ周以後禮義地ニ墜チテ自由競爭ノ世トナリ、上下華美ニ流レテ欲望ヲ制スルコトヲ知ラズ、富者ノ奢侈品ハ盛ンニ生産サレ、而モ貧者ハ衣食ノ資ヲ給スル能ハズ、甚シキ貧富ノ懸隔ヲ生ジテ、社會ハ忽チ混亂ノ狀態ニ陷ツタトシ、『禮義大ニ壞レ、上下相冒シ、國々政ヲ異ニシ、家々俗ヲ殊ニス、嗜欲制セズ、僭差極リナシ、是ニ於イテ商ハ得難キノ貨ヲ通ジ、工ハ用ナキノ器ヲ作り、士ハ道ニ反スルノ行ヲ設ケ、以テ時好ヲ追ヒ、而シテ世資ヲ取り、僞氏ハ實ニ背イテ名ヲ要メ、姦夫ハ害ヲ犯シテ利ヲ求、篡弑シテ國ヲ取ルモノハ王公ト爲リ、鬭奪シテ家ヲ成スモノハ雄傑ト爲ル、禮義モ以テ君子ヲ拘スルニ足ラズ、刑戮モ以テ小人ヲ威スニ足ラズ、富者ハ木土ニマデ文錦ヲ被セ、犬馬モ肉粟ヲ餘シ、而シテ貧者ハ短褐モ完カラズ、豆ヲ含ミ水ヲ飲ム』(註五) ト言ツテ居ル。一讀宛モおるぞどつくす派ノ自由放任ノ說ニ本ヅク現代社會ノ缺陷ヲ、千八百年ノ古ニ痛嘆長太息シタカノ如キ感ヲ禁ジ得ナイモノガアル。斯クノ如ク班固ハ學說ノ上ヨリ司馬遷ニ對シ有力ナル反對說ヲ立テ、『史記』ノ貨殖傳ヲ以テ其ノ游俠傳ト共ニ、是非ヲ混亂シタルモノトシテ之ヲ譏ツテ居ル。後世司馬遷ヲ辯護スル者ハ、司馬遷ノ此ノ言ヲ以テ遷ガ眞ニ勢利ヲ崇ブノ意アルニアラズ、却ツテ深ク當世貨ヲ好ムノ俗ヲ諷リタルモノナリトシ、或ハ遷蠶室ニ下サレ、貨財ノ以テ罪ヲ贖フベキ無シ、

依ツテ多ク感悽ノ言ヲ漏ラシタルモノナリトシテ居ル。斯クテ司馬遷ノ辯護者ト雖、遷ノ此ノ說ニ贊同セザルコトハ之ヲ攻撃スルモノト全ク同一轍 出ヅルモノデアツテ、斯クテ遷ノ此ノ說ハ、支那ニ於イテ遂ニ何人カラモ祖述セラレズニ今日ニ至ツタモノデアル。

(註一) 夫神農以前吾不知已 至若詩書所述虞夏以來、耳目欲極聲色之好、口欲窮芻豢之味、身安逸樂、而心誇矜勢能之榮、使俗之漸民久矣、雖戶說以彫論、終不能化、(『史記』貨殖傳)

(註二) 天下熙熙皆爲利來、天下壤壤爲利往、(『史記』貨殖傳)

(註三) 故待農而食之、虞而出之、工而成之、商而通之、此寧有政教發微期會哉、人各任其能、竭其力、以得所欲、故物賤之微貴、貴之微賤、各勸其業、樂其事、若水之趨下、日夜無休時、不召而自來、不求而民出之、豈非道之所符而自然之驗邪、

(『史記』貨殖傳)

(註四) 是以欲寡而事節、財足而不爭、於是在民上者、道之以德、齊之以禮、故民有耻而且敬、貴誼而賤利、(『漢書』貨殖傳)

(註五) 禮誼大壞、上下相冒、國異政、家殊俗、奢欲不制、僭差亡極、於是開通難得之貨、工作亡用之器、士設反道之行、以追時好、而取世資、僞民背實而要名、姦夫犯害而求利、篡竊取國者爲王公、園尊成家者爲雄傑、禮誼不足以拘君子、刑戮不足以威小人、富者本土被文錦、犬馬餘肉粟、而貧者短褐不完、含菽飲水、(『漢書』貨殖傳)

三 次ニ支那ニ於イテ經濟思想ノ權威トセラルル『管子』ノ中ニ、時ニ奢侈ヲ獎勵スルガ如キ語句ヲ見出スコトガアル。例ヘバ『上修ニシテ下靡シ、君臣相歡ミ、上下相親シマバ、則チ君臣ハ財私藏セラレズ、然ラバ則チ食動枳リテ食ヲ得ン』(註一)ト言ヘル如キソレデアル。『管子』ハ難解ノ書デアツテ、此ノ條ノ如キモ意義鮮明ヲ缺グモ、『管子纂詁』ノ說ニ從ヘバ、君臣上下奢侈ヲ極メ財貨私藏セラレズバ、貧民皆食ヲ得ルニ至ルノ意味デアルト云フ。果シテ然ラバ支那一般ノ

思想トハ餘程變ツタ經濟說デアルガ、併シ『管子』ノ書タル元來雜駁ナルモノデアル上ニ、此ノ侈靡篇ハ全ク權謀ヲ以テ充タサレ、從ツテ此ノ奢侈說ノ如キモ、管子學派ニ於イテ固ヨリ重キヲ爲ス說デハナイ。管子學派ノ根本思想ハ、却ツテ之ト反對ニ欲望制限ヲ主張スルノデアル。曰ハク『度量ヲ審ニシ、衣食ヲ節シ、財用ヲ儉シ、侈泰ヲ禁ズルハ、國ヲ爲ムルノ急也』(註二)ト。又曰ハク『口ニ之ヲ益シテモ少キヲ患フル者ハコレ忠ナリ、口ニ之ヲ損シテモ多キヲ患フル者ハコレ欲ナリ、忠ヲ多クシ欲ヲ少クスルハ智也』(註三)ト。又曰ハク『地ノ財ヲ生ズル時アリ、民ノ力ヲ用フル倦ムコトアリ、而シテ人君ノ欲ハ窮リ無シ、時アルト倦ムコトアルトヲ以テシテ、窮リナキノ君ヲ養フ、而シテ度量其ノ間ニ生ゼズンバ、上下相疾マン』(註四)ト。此等ノ說ヲ觀レバ一般ノ管子學派ノ挾持スル所ハ略ボ明カデアラウト思フ。猶ホ管子ノ有名ナル『倉廩實レバ禮節ヲ知り、衣食足レバ榮辱ヲ知ル』(註五)ノ語ニ就イテ考フルニ、是レ固ヨリ經濟サヘ餘裕アラシメタナラバ其レニテ足レリトスルモノデハナイ。同ジク牧民篇ニ『國ニ四維アリ、一維絶ユレバ傾ク、二維絶ユレバ危ク、三維絶ユレバ覆ル、四維絶ユレバ滅ブ、中略何ヲカ四維ト謂フ、一ニ曰ハク禮、二ニ曰ハク義、三ニ曰ハク廉、四ニ曰ハク恥』(註六)トアリ。即チ道德ハ國ヲ維持スル大綱デアツテ、道德張ラザレバ國ハ乃チ滅亡スル、其ノ大切ナル道德ヲ行ハンガ爲メニハ、ソガ前提トシテ人民ノ經濟狀態ヲ完備セシメザルベカラズトスルニ過ギス。唯ダ管子學派ハ主トシテ其ノ經濟的方面ヲ論ジタコトニ於イテ特色ヲ有スルノデアルガ、其ノ經濟ニ關スル根本觀念ニ就イテハ、後ニ述ブル所ノ儒家ノ思想ト、大略同一ノ立脚地ニ立ツモノト謂ツテ差支ナカラウド



思フ。若シ夫レ管仲ニ次イデ經濟ヲ以テ稱セラレタル晏嬰ノ如キニ至ツテハ、人或ハ之ヲ儒家ノ中ニ加フルモノサヘアル程ニテ、『晏子春秋』ニ現ハレタル經濟思想ヲ通觀スルモ、全ク儒家ノ思想ノ範圍ヲ出デズ、一狐裘三十年ノ事實、最ヨク彼レガ欲望制限論ノ立場ヲ語ルモノデアルト言ヘヤウト思フ。

又管子トハ全ク學風ヲ異ニスルモ、後世法家者流トイフ名稱ノ下ニ、管子ト並ベ稱スル韓非子ノ如キモ、其ノ學說ノ根柢ガ、後ニ述ブル老子及ビ荀子ニ本ヅクモノアルノト、且ツ『韓非子』中解老喻老二篇ニ於イテ、老子ノ『禍ハ足ルコトヲ知ラザルヨリ大ナルハ莫ク、咎ハ得ンコトヲ欲スルヨリ大ナルハ莫シ』(註七)ノ意ヲ反覆シ、五蠹篇ニ於イテ、『商工ノ民、苦窳ノ器ヲ修治シ、沸靡ノ財ヲ聚メ、蓄積時ヲ待ツテ、而シテ農天ノ利ニ俾シ』(註八)ト言ヒ、商工ノ民ヲ五蠹ノ一ニ加ヘタルヨリ考フルニ、其ノ奢侈ヲ嫌ヒ制欲ヲ主トシタルコト、想見スルニ難カラザル所デアル。

(註一) 上修而下靡、而君臣相歎、上下相親、則君臣之財不私藏、然則貪動積、而得食矣、(『管子』侈靡篇)

(註二) 審度量、節衣食、儉財用、禁侈泰、爲國之益也、(『管子』八觀篇)

(註三) 日益之而患少者唯忠、日損之而患多者惟欲、多忠少欲智也、(同樞言篇)

(註四) 地之生財有時、民之用力有倦、而人君之欲無窮、以有時與有倦、養無窮之君、而度量不生於其間、則上下相疾也、(同權修篇)

#### 權修篇

(註五) 倉廩實則知禮節、衣食足則知榮辱、(同牧民篇)

(註六) 國有四維、一維絕則傾、二維絕則危、三維絕則覆、四維絕則滅、中略、何謂四維、一曰禮、二曰義、三曰廉、四曰恥、

(同上)

(註七) 禍莫大於不知足、咎莫大於欲得、『老子』四十六章)

(註八) 商工之民、修治苦慮之器、聚涕靡之財、蓄積待時、而俾農夫之利、『韓非子』五蠹篇)

四 以上述べタル如ク支那ニ於イテモ時ニ多少ノ異説ナキニシモアラザレドモ、其ノ異説タルヤ其ノ學派内ニ於イテサヘ有力ノ説ニアラズ、從ツテ支那ノ思想界ニ於イテ何程ノ勢力ヲモ有セザリシモノデアル。元來本稿ノ主旨ハ、支那特殊ノ文化ノ説明トシテ、其ノ經濟思想ノ出發點ヲ述ベテ見タイト思フノデアルカラ、斯カル異説ニ就イテハ、唯ダ其レガ支那ノ文化ニ對シテ勢力ナキモノデアルト云フ事ヲ明ニシテ置キサヘスレバ事足リルノデアル。

支那ノ文化ト最重大ナル關係ヲ有スル經濟思想トシテハ、古來支那ノ社會ニ最力強ク根ザシタル儒家及ビ道家ノ思想ヲ嚮グルノガ至當デアラウト思フ。是レ本稿ニ於イテ問題ヲ儒家及ビ道家ニ限リタル所以デアル。猶此ノ外ニ法家ノ思想ノ如キ、前二者ニ次イデ支那思想ニ影響スル所多ク、殊ニ管子學派ノ經濟政策ハ、後世ニ非常ナル關係ヲ有スルモノデアルガ、其ノ經濟思想ノ出發點ニ於イテハ、前ニモ述べシ如ク儒家ノソレト大差ナキモノデアリ、且ツ前項ニ於イテ既ニ微シク其ノ端倪ヲ示シタルヲ以テ、ココニハ是レ以上詳説スルノ煩ヲ避クルコトトスル。又此ノ頃支那ニ於イテ其ノ研究ノ稍盛ンニナリシ墨家ノ思想ノ如キ、經濟思想史上見遁スベカラザルモノデハアルガ、其ノ『足財ナキニ非ザルナリ、我ニ足心ナキ也』(註一)ト云ヒ、又『聖人政ヲ爲ス、一國倍スベキ也 中略 其ノ之ヲ倍スル、外ニ地ヲ取ルニ非ズ、其國家ニ因リテ其ノ無用ノ費ヲ去ラバ、以テ之ヲ倍スルニ足ル』(註二)ナド唱ヘ、極端ナル儉約主義ヲ主張スル所、是レ亦儒道二家

ト其ノ立脚地ヲ異ニスルモノニ非ズシテ、寧ロ二家ノ中間ニ位スル如キ程度ノモノデアルト思フ。  
且ツ墨家ノ説ハ、從來支那ノ文化ニ重大ナル刺戟ヲ與ヘタルモノト謂フコトハ出來ナイカラ、是  
レ亦暫ク省略ニ從フコトトスル。

(註一) 非無足財也、我無足心也、(『墨子』親士篇)

(註二) 聖人爲政、一國可倍也、……其倍之、非外取地也、因其國家、去其無用之費、足以倍之、(『墨子』節用上篇)

附言一、ココニ支那經濟思想ト云フハ、支那ノ學者ノ經濟思想ノ義デアツテ、支那ノ一般國民ノ經濟思想ノ義デハナイ、而シ  
テココニ述ブル學者ノ思想ガ、一般國民ノ思想ト果シテ一致スルモノアリヤ、或ハ全ク之ト相反スルモノナリヤトイフ如キ  
コトハ、ココデハ問題外ニ置クノデアル。

附言二、ココニ題シテ單ニ欲望論ト云フモ、是レ固ヨリ經濟的欲望即チ物質的欲望ナ意味スルモノデアアル、尤モ支那ノ古書ニ  
於イテ、物質的欲望ト精神の欲望トヲ明カニ區別シテ説キタルモノハ無ク、單ニ欲ト云ヒテ或ハ前著ノミナ指スコトアリ、  
或ハ後者ヲモ兼テ言フ場合アリ、以下引用スルニ當リ一々之ヲ指摘セズ、而シテ兩者ヲ兼テ言フ場合ニ在リテモ、固ヨリ其  
ノ物質の欲望ノ方面ノミナ取りテ論ズルコト勿論デアアル。

附言三、今一言斷リ置カザルベカラザルハ、引用書ニ關スル本文研究ノコトデアアル、凡ソ古典ニ關シテ説ナ立テントセバ、先  
ヅ本文研究ヨリ入り、其ノ引用スル書ノ著者著述ノ年代ヲ明ニシ思想ノ系統ヲ正スベキデアアル、然ルニ支那先秦ノ古典ニ在  
リテハ、六經ヲ始メトシ、諸子百家一トシテ其著者又ハ著述年代ニ就キ異論ナキモノハ殆ンドナク、之ヲ一々明確ニ定メン  
コトハ實ニ至難ノコトニ屬ス、因リテココニハ單ニ儒道兩學派中ニ就キ、夫々經濟ニ關スル根本思想ト思フモノヲ搜リ出シ  
テ紹介スルニ止メ、其思想發生ノ先後又ハ著者ノ如何ハ敢テ問ハザルコトトスル。

## 二 儒家ノ寡欲論

一 儒家ノ學ハ廣キ意味ニ於ケル政治學デアル。凡ソ支那ニ在リテ古ヨリ今日ニ至ルマデ最勢カノアツタ政治學デアルト謂ツテ差支アルマイ。既ニ廣義ノ政治學デアル以上、所謂經濟ノ思想ハ固ヨリ其ノ包含スル所デアツテ、從ツテ支那ノ學者ノ經濟ニ關スル根本觀念ハ、儒家ノ學說ニ負フ所最モ大ナルモノガアル。人若シ儒家ノ學ヲ以テ單ニ道德學ナリトシ、其ノ經濟說ヲ以テ道德學者ノ經濟觀ナリト看做スモノアラバ、ソハ正鵠ヲ得タ見解デハナイ。儒家カ道德ヲ尊重スルコトハ固ヨリ事實デアルガ、併シソハ道德學者トシテ道德ヲ尊重スルニ非ズシテ、政治學者トシテ道德ヲ尊重スルモノデアル。今日デハ政治ト云ヘバ一般ニ必ズ經濟ニ附イテ廻ルモノトノミ思惟セラルル如キモ、支那固有ノ政治ハ實ニ道德ヲ中心トシテ組ミ立テラレタル政治デアツタノデアル。

然ラバ儒家ノ政治思想ニ於イテ、道德ト經濟トノ關係ハ如何トイフニ、其レハ言フマデモ無ク道德ヲ以テ經濟ノ上ニ置クノデアル。『尙書』ノ首篇ヲ見ルニ『帝曰ハク、契、百姓親シマズ、五品遜ハズ、汝司徒ト作り、五教ヲ敷キ、寛ニ在レ』(註一)トアル。孟子ハ此ノ事ヲ説明シ、且ツ五教ノ目ヲ詳ニシテ次ノ如ク言ツテ居ル、『后稷氏ニ稼穡ヲ教ヘ、五穀ヲ樹藝セシム、五穀熟シテ民人育ス、人ノ道有ルヤ、飽食煖衣、逸居シテ教ナケレバ、則チ禽獸ニ近シ、聖人之ヲ憂フル有リ、契ヲシテ司徒爲ラシメ、教フルニ人倫ヲ以テセシム、父子親アリ、君臣義アリ、夫婦別アリ、長幼序アリ、朋友信アリ』(註二)。蓋シ人ガ經濟生活ヲ満足セシムルノミニテハ、是レ猶禽獸同様ノ生活ヲ脱却セザルモノデアル、吾人ハ須ラク其上ニ更ニ高キ道德生活ノ横ハルコトヲ知ラザル

ベカラズトスルノデアル。然ラバ謂フ所ノ道德トハ抑如何ナル性質ノモノナルカト云フニ、『尙書』ニ曰ハク、『天有典ヲ叙ヅ、我カ五典ヲ勅シテ、五ツナガラ悖セヨ』(註三)ト、是レ五典卽チ道德ハ天ノ叙次スル所、換言スレバ自然ノ法則デアルトスルノデアル。『詩』ニ曰ハク、『天烝民ヲ生ズ、物有レバ則アリ、民ノ秉彝、是ノ懿德ヲ好ム』(註四)ト、是レ亦タ道德ノ根據ヲ天ニ置クモノデアル。孔子此詩ヲ評シテ『此ノ詩ヲ爲ル者ハ其レ道ヲ知レルカ』(註五)ト言ヒシヲ見レバ孔子モ之ト見解ヲ同ジクシテ居タコトガワカル。『中庸』ニハ『天ノ命ズル之ヲ性ト謂ヒ性ニ率フ之ヲ道ト謂フ』(註六)ト言ヒ、降ツテ孟子ニ及ンデハ、人性善ノ說ヲ唱道シ、道德ガ人性ノ自然ニ本ヅクモノナルヲ力説シタノデアル。要スルニ道德ヲ以テ天意若クハ自然ノ法則ニ本ヅクモノトスルハ、一般ノ儒家ノ思想デアル。而シテ此ノ天意ヲ受ケ、自然ノ法則ニ從ヒ、人類ノ道德性ヲ裁成輔相スルモノ、之ヲ政治ト謂フノデアル。サレバ孔子ガ仁ヲ説キ禮ヲ説キ、孟子ガ仁義禮智ノ四德ヲ提唱シ、更ニ降ツテ程朱陸王ノ性理ノ學ヲ鼓吹スルニ至ルマデ、其ノ道德トスル所ノモノノ内容ハ多少ノ相違アルモ、齊シク道德ヲ以テ自然ニ本ヅクモノナリトシ、道德生活ヲ以テ人生ノ眞意義トナシ、天下ノ民ヲシテ皆此ノ道德生活ニ入ラシメンコトヲ其ノ理想トシタモノデアル。從ツテ經濟ノ如キハ政治ノ目的ニハアラズシテ、其ノ目的ヲ達スベキ必要ノ手段トシテ之ヲ認ムルニ過ギナイトイフヤウナ有様デアル。

併シ乍ラ儒家ノ思想中ニ在リテモ、經濟ヲ大ニ重ンジタルカノ如ク思ハル節ガ無イデハナイ『尙書』堯典ニ舜ガ九官ヲ命ズルニ當リ、契ヲシテ五教ヲ敷カシムル前ニ、先ヅ禹ヲシテ水土ヲ治

メシメ、稷ヲシテ百穀ヲ播カシメタル如キ、又洪範ニ八政ヲ言ヒ、食ト貨トヲ以テ祀ヤ司徒ヨリモ先キニセル如キ、<sup>〔註七〕</sup>一見其ノ先後ヲ以テ輕重ヲ示シタルカノ感ヲ起シ易イノデアル。併シ是レハ班固モ言ヘル如ク、『食足り貨通ジ、然ル後ニ國實チ民富ミ、而シテ教化成ル』<sup>〔註八〕</sup>ノ意デアツテ、生養ノ具備ラザレバ以テ人タルノ道ヲ教フベカラズ、即チ教化センガ爲メノ食貨ニシテ、是レ順序トシテ經濟ヲ先ニセルニ外ナラス。又孔子ガ子貢ノ政ヲ問フニ答ヘテ、『食ヲ足シ、兵ヲ足シ、民ヲシテ之ヲ信ゼシム』<sup>〔註九〕</sup>ト言ヘルハ、他日孔子ガ冉有ト庶富教ノ問答アリシ<sup>〔註一〇〕</sup>ニ對比シテ道德ヨリモ經濟ニ重キヲ置キタルガ如クニモ見ヘザルニ非ザルモ、子貢ガ更ニ必ズ己ムコトヲ得ズシテ去ラバ何レヲ先キニセント反問セルニ對シ、先ヅ兵ヲ去リ次ニ食ヲ去ラン、『古ヨリ皆死アリ、民信ナクンバ立タズ』<sup>〔註九〕</sup>ト答ヘタルヲ見レバ、孔子ノ意知ルベキデアル。即チ孔子ハ施政ノ順序トシテハ經濟ハ道德ニ先ダツベキモ、其ノ人生ニ於ケル價值ニ就イテ言ヘバ、經濟ハ到底道德ニ及ブベキモノニ非ズトスルノデアル。孟子ノ語トシテ有名ナル『恒産無クンバ因ツテ恒心無シ』<sup>〔註一一〕</sup>ノ如キ、亦之ト同ジ意味デアル。孟子ガ王道ト稱シテ唱フル仁政モ、『庠序學校ヲ設爲シテ、以テ之ヲ教ヘ中路人倫上ニ明カニシテ、小民下ニ親シム』<sup>〔註一二〕</sup>ガ如キ狀態ヲ以テ、其終極ノ理想トスルノデアル。唯如何セン仰事俯畜スルニ贍ルベキ恒産ナキモノハ、禮義道德ヲ治ムルノ恒心ナキヲ、サレバ其ノ先行ノ條件トシテ、經濟ヲ充足セシメンコトヲ説イタノデアル。『穀ト魚鼈ト勝ゲテ食フベカラズ、材木勝ゲテ用フベカラズ、是レ民ヲシテ生ヲ養ヒ死ヲ喪シテ憾無カラシムル也、生ヲ養ヒ死ヲ喪シテ憾無キハ王道ノ始也』<sup>〔註一三〕</sup>ト言ツテ居ルノヲ見テモ、經

濟的政治ハ王道ノ始メニシテ、其ノ全體ニ非ザルコト明カデアル。孟子ガ經濟ヲ力説シ、時々經濟ヲ以テ終極ノ目的トスルカニ見ユルハ、當時ノ社會狀態ガ、道德政治ヲ施クニハ餘リニ經濟組織ガ崩壞シ過ギテ居タ爲メデアツテ、『王何ゾ必シモ利ヲ曰ハン、亦タ仁義有ルノミ』(註一四)ノ一語、以テ孟子ノ主意ノ那邊ニ在ルカラ定ムルニ十分デアル。

之ヲ要スルニ儒家ノ見解ニ從ヘバ、道德ノ爲メノ經濟ニシテ、經濟ノ爲メノ道德ニアラズ、道德ハ經濟ノ手段ニアラズシテ、却ツテ經濟ガ道德生活ニ入ルベキ階段ト看做サレテ居ルト謂ツテヨイノデアル。

(註一) 帝曰、契、百姓不親、五品不遜、汝作司徒、敷五教、在寬、(『今文尚書』堯典、)『傷古文尚書』舜典、)

(註二) 后稷教民稼穡、樹藝五穀、五穀熟而民人育、人之有道也、飽食煖衣、逸居而無教、則近於禽獸、聖人有憂之、使契爲

司徒、教以人倫、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信、(『孟子』滕文公章句上)

(註三) 天叙有典、勅我五典、五惇哉、(『尚書』皋陶謨)

(註四) 天生蒸民、有物有則、民之秉彝、好是懿德、(『詩』大雅蒸民)

(註五) 詩曰天生蒸民、有物有則、民之秉彝、好是懿德、孔子曰、爲此詩者、其知道乎、(『孟子』告子章句上)

(註六) 天命之謂性、率性之謂道、(『中庸』)

(註七) 一曰食、二曰貨、三曰祀、四曰司空、五曰司徒、六曰司寇、七曰賓、八曰師、(『尚書』洪範)

(註八) 食足貨通、然後國實民富、而教化成、(『漢書』食貨志)

(註九) 子貢問政、子曰、足食、足兵、民信之矣、子貢曰、必不得已而去、於斯三者何先、曰去兵、子貢曰、必不得已而去、於斯二者何先、曰去食、自古皆有死、民無信不立、(『論語』顏淵篇)

(註一〇) 子適衛、冉有僕、子曰、庶哉、冉有曰、既庶矣、又何加焉、曰富之、曰既富矣、又何加焉、曰教之、(『論語』子路篇)

(註一) 無恒産、因無恒心、(『孟子』梁惠王章句上)

(註二) 設爲庠序學校、以教之、：人倫明於上、小民親於下、(同滕文公章句上)

(註三) 穀與魚鼈不可勝食、材木不可勝用、是使民養生喪死無憾也、養生喪死無憾、王道之始也、(同梁惠王章句上)

(註四) 王何必曰利、亦有仁義而已矣、(同上)

二 儒家ハ前述ノ如ク經濟生活ヲバ重要視シナカッタノデアルガ、ソレニシテモ人生ニ於イテ、道德生活ト經濟生活トノ二者ヲ併セ認メテ居ル以上、如何ニシテ此ノ兩生活ノ分界ヲ立テ、本末輕重ノ序ヲ亂サザラシメントスルノデアルカ。儒家ガ此ノ問題ヲ解決スル唯一ノ關鍵トシテ捉ヘ來ツタモノハ、即チ欲望ノ制限ト云フコトデアル。『易』ノ損ノ卦ハ、下ヲ損シテ上ヲ益スノ義デアル。其ノ彖辭ニ曰ハク、『損ハ孚アリ、元吉ナリ、咎ナシ、貞ニスベシ、往クトコロ有ルニ利アリ』曷ヲカ之レ用ヒン、二簋用ツテ享ス可シ』(註一)ト。其ノ象傳ニ曰ハク、『山下ニ澤アルハ損ナリ、君子以テ忍ヲ懲シ欲ヲ窒グ』(註二)ト。蓋シ物質ヲ儉シテ誠意ヲ致シ、欲望ヲ減ジテ中正ニ就クベキモノトスルノデアル。又『易』ノ艮ノ卦ハ、止マルノ義デアル。其ノ彖辭ニ曰ハク、『其ノ背ニ艮マル、其ノ身ヲ獲ズ、其ノ庭ニ行イテ、其ノ人ヲ見ズ、咎ナシ』(註三)ト。言フココロハ人ノ能ク其ノ止マルベキトコロニ安ンズル能ハザルハ、外物ニ牽カレ欲望ニ動カサルガ爲メデアル。若シ心ヲ無我ノ境ニ置クナラバ、外物至近ニ在ルトモ内欲萌サズ、常ニ精神生活ニ安ンズルコトヲ得ルト爲ルノデアル。

又孔子曰ハク、『君子食飽クコトヲ求ムルコト無ク、居安キコトヲ求ムルコトナク、事ニ敏ニシテ言ヲ慎シミ、有道ニ就キテ正サバ、學ヲ好ムト謂フベキノミ』(註四)ト。又曰ハク、『士、道ニ



志シテ惡衣惡食ヲ恥ヅル者ハ、未ダ與ニ議スルニ足ラザル也』(註五)ト。是レハ苟モ道德生活ニ入ラントスル者ハ、經濟的欲望ヲバ之ヲ最少限度ニ制限セザルベカラザルヲ説クモノデアツテ、更ニ孔子ハ、『疏食ヲ飯ヒ水ヲ飲ミ、肱ヲ曲ゲテ之ヲ枕トスルモ、樂其ノ中ニ在リ、不義ニシテ富ミ且ツ貴キハ、我ニ於イテ浮雲ノ如シ』(註六)ト言ツテ、經濟的欲望ヲ制限シテ、道德生活ニ入ル悅樂ノ狀態ヲ言ヒ表ハシテ居ル。孟子モ『心ヲ養フハ寡欲ヨリ善キハ莫シ、其ノ人ト爲リ寡欲ナラバ、存セザル者アリト雖寡シ、其ノ人ト爲リ多欲ナラバ、存スル者有リト雖寡シ』(註七)ト言ヒ、人ノ本心ヲ存養スルニハ、欲望制限ノ必要アルヲ説キ、又『人ノ身ニ於ケルヤ愛スル所ヲ兼ヌ、愛スル所ヲ兼ヌレバ養フ所ヲ兼ヌ、中略體ニ貴賤アリ、小大アリ、小ヲ以テ大ヲ害スルコト無ク、賤ヲ以テ貴ヲ害スルコト無カレ、其ノ小ヲ養フ者ヲ小人ト爲シ、其ノ大ヲ養フ者ヲ大人ト爲ス』(註八)ト言ツテ居ル。ココニ小體トハ肉體ノコトニテ、大體トハ精神ノコトデアアル。即チ嗜欲ヲ檢束シ、經濟生活ヲ以テ道德生活ヲ害セザル人間ヲ以テ大人トナシ、之ニ反スルモノヲ小人ト爲シテ居ル。孟子ハ更ニ語ヲ續イデ、『飲食ノ人ハ人之ヲ賤シム、其ノ小ヲ養ヒテ大ヲ失フガ爲メナリ、飲食ノ人失フ有ル無クンバ、口腹豈適ニ尺寸ノ膚ノ爲メノミナランヤ』(註九)ト結ンデ居ル。即チ孟子ハ經濟生活ガ道德生活ヲ害セザル範圍ニ於イテハ、當ニ之ヲ排斥セザルノミナラズ、却ツテ其レガ道德生活ヲ助成スルモノトシテ之ヲ承認シテ居ルノデアアル。

其ノ他『尙書』ニ、『嗚呼惟レ天民ヲ生ジテ欲有リ、主無ケレバ乃チ亂ル、惟レ天聰明ヲ生ジテメ<sup>ホサ</sup>メシム』(註十)ト言ヒ、『禮記』ニ、『敖ハ長ズ可カラズ、欲ハ從<sup>ホシイマ</sup>ニス可カラズ、志ハ滿タシム時<sup>コ</sup>レ又メシム』(註十一)ト言ヒ、『禮記』ニ、『敖ハ長ズ可カラズ、欲ハ從<sup>ホシイマ</sup>ニス可カラズ、志ハ滿タシム

可カラズ、樂ハ極ム可カラズ』(註十二)ト言ヒ、或ハ『春秋左氏傳』ニ、『儉ハ德ノ共也、侈ハ惡ノ大也』(註十二)ト言ヒ、又『欲ヲ專ニスレバ成ルコト無シ』(註十三)ト言ヘル類、何レモ奢侈ヲ警メ欲望ヲ制セシメ、以テヨリ高キ生活ニ進入セシメントスル用意ニ非ザルモノハ無イ。

降ツテ宋儒ニ及ンデハ、後ニ述ブル道家ノ思想ト、及ビ印度傳來ノ佛教思想トノ影響ヲ受ケ、復性ノ說ヲ唱道シ、遂ニ寡欲ヨリ進ンデ無欲ノ論ヲ主張スルニ至ツタ。其ノ元祖ト謂フベキハ即チ周濂溪デアツテ、其ノ說ニ、『聖學ブ可キカ、曰ハク可シ、要有リヤ、曰ハク有リ、請フ聞カシ、曰ハク一ヲ要ト爲ス、一トハ無欲ナリ』(註十四)ト言ツテ居ル。サレバ周子ハ孟子ノ寡欲說ヲ解シテ、『孟子曰ハク、心ヲ養フハ寡欲ヨリ善キハ莫シト、予謂ヘラク、心ヲ養フハ寡クシテ存スルニ止マラズ、寡クシテ以テ無ニ至ルナリ、無ナレバ誠立テ明通ズ、誠立テバ賢也、明通ズレバ聖也』(註五)ト言ヒ、孟子ノ所謂寡欲ヲ以テ、欲望ヲ制限シテ多少ハ存シ置クノ謂ニアラズ、徐々ニ寡クシテ遂ニ無ニ歸セシムルノ意デアルトシテ居ル。次ニ濂溪ノ後デハ朱晦庵ガ最ヨク無欲論ヲ高調シテ居ル。例ヘバ『大學』ノ『明德ヲ明カニスル』ノ條ヲ解スルヲ觀ルニ、『明德トハ人ノ天ヨリ得ル所ニシテ、虛靈不昧、以テ衆理ヲ具ヘテ萬事ニ應ズル者也、但ダ氣稟ニ拘ヘラレ、物欲ニ蔽ハルルトキハ則チ時トシテ昏キコトアリ、然カモ其ノ本體ノ明ハ未ダ嘗テ息マザル者アリ、故ニ學者當サニ其ノ發スル所ニ因ツテ遂ニ之ヲ明ニシ、以テ其ノ初ニ復ルベシ中略、蓋必ズ其ノ以テ夫ノ天理ノ極ヲ盡スコト有ツテ、而シテ一毫人欲ノ私無キ也』(註一六)ト言ヒ、人欲ヲ斷滅スルヲ以テ、人性自然ノ天理ニ復歸スル所以ト爲シテ居ノデアル。是ニ宋儒ノ欲ト云フハ、形氣ノ欲

即チ肉體ノ欲ノ義デアルガ、宋儒ト雖肉體の欲望ヲ全然否定スルコトハ事實上出來ナイコトデア  
ルカラ、從ツテココニ無欲ノ説ハ、畢竟天理ノ命ズルガママニ活動シ肉體の欲望ニ對シテハ全ク  
無關心ノ狀態トナルコトト解シテ然ルベキモノト思フノデアアル。

〔註一〕 損有孚、元吉、无咎、可貞、利有攸往、曷之用、二簋可用享、〔易〕損卦象辭

〔註二〕 山下有澤損、君子以懲忿窒欲、〔易〕損卦象傳

〔註三〕 艮其背、不獲其身、行其庭、不見其人、无咎、〔易〕艮卦象辭

〔註四〕 君子食無求飽、居無求安、敏於事、而慎於言、就有道而正焉、可謂好學也已、〔論語〕學而篇

〔註五〕 士志於道、而恥惡衣惡食者、未足與議也、〔論語〕里仁篇

〔註六〕 飯疏食、飲水、曲肱而枕之、樂在其中矣、不義而富且貴、於我如浮雲、〔論語〕述而篇

〔註七〕 養心莫善於寡欲、其爲人也寡欲、雖有不存焉者寡矣、其爲人也多欲、雖有存焉者寡矣、〔孟子〕盡心章句下

〔註八〕 人之於身也、兼所愛、兼所愛、則兼所養也、……體有貴賤、有大小、無以小害大、無以賤害貴、養其小者爲小人、養

其大者爲大人、〔孟子〕告子章句上

〔註九〕 飲食之人、則人賤之矣、爲其養小以失大也、飲食之人無有失也、則口腹豈適爲尺寸之膚哉、〔同上〕

〔註十〕 嗚呼、惟天生民有欲、無主乃亂、惟天生聰明時乂、〔僞古文尚書〕仲虺之誥

〔註十一〕 教不可長、欲不可從、志不可滿、樂不可極、〔禮記〕曲禮上

〔註十二〕 儉、德之共也、侈、惡之大也、〔春秋左氏傳〕莊公二十四年

〔註十三〕 專欲無成、〔春秋左氏傳〕襄公十年

〔註十四〕 聖可學乎、曰可、曰有要乎、曰有、請問焉、曰一爲要、一者無欲也、〔通書〕

〔註十五〕 孟子曰、養心莫善於寡欲、予謂養心不止於寡而存耳、蓋寡焉以至於無、無則誠立明通、誠立賢也、明通聖也、〔養

## 心亭說

〔註十六〕 明德者、人之所得乎天、而虛靈不昧、以具衆理、而應萬事者也、但爲氣稟所拘、人欲所蔽、則有時而昏、然本體之明、則有未嘗息者、故學者當因其所發、而遂明之、以復其初也、……蓋必其有以盡夫天理之極、而無一毫人欲之私也、(大學章句)〔註〕

## 三 次ニ儒家ハ更ニ進ンデ欲望制限ガ自然ノ法則ニ適フモノデアルト云フコトヲ論ジテ居ル。

一體吾人ハ何故ニ欲望ヲ制限セザルベカラザルカト云フ疑問ニ對シテハ、前ニ述ベタル如ク吾人ガ自然ノ要求タル道德生活ニ入ラザルベカラザルガ爲メナリト答フレバ、一應ノ理由ハ立ツヤウデアルガ、併シ道德モ自然ノ要求デアルト同時ニ、欲望モ亦タ自然ノ產物ニアラズヤトノ反問ガ起リ得ルノデアアル。其レニ對シテ儒家ハ如何ニ答フルカト云フニ、成程欲望モ自然ノ產物デアツテ、本來決シテ惡イモノデハ無イ、然ルニ之ヲ際限ナク増長セシムルトキハ、ココニ自然ニ反シテ惡トナルノデアアル、サレバ欲望ハ人ノ道德生活ト衝突シナイ範圍ニ制限シ、夫レ以外ニ逸出セシメザルコトニスレバ、ソコデ始メテ自然ノ法則ニ適ツタコトトナルノデアルトスル。『禮記』ニ『先王ノ禮ヲ制スルヤ、以テ口腹耳目ノ欲ヲ極ムルニ非ザル也、將ニ以テ民ヲシテ好惡ヲ平ニシ、人道ノ正ニ反ラシメントスル也、人生レナガラニシテ靜ナルハ天ノ性也、物ニ感ジテ動クハ性ノ欲也、物至リ知知ル、然ル後好惡形ハル、好惡内ニ節ナクシテ、知外ニ誘ハルルトキハ、躬ニ反スル能ハズシテ天理滅ブ、夫レ物ノ人ヲ感ゼシムルコト窮リ無クシテ、而シテ人ノ好惡節無キトキハ、是レ物至リテ人ガ物ニ化セラルル也、人ガ物ニ化セラルル者ハ、天理ヲ滅シテ人欲ヲ窮ムル者也』(註二)トアルハ、即チ其ノ意味デアアル。此ノ天理人欲ノ語ハ、後世宋儒ノ盛ンニ襲用スル

所トナツタノデアルガ、併シ朱子等ノ用フル人欲ノ語ノ意義ハ『禮記』ノソレトハ異リ、全然之ヲ外染の自然ノモノトナスニ至リ、從ツテ人欲斷滅ノ論ガ出テ來ルコトナツタノデアル。今朱子等ノ謂フ所ノ説ハ論外ニ置クトシテ、扱テ欲望ガ若シ自然ノ產物デアルトスルナラバ、之ヲ制限スルコトガ同時ニ自然ノ法則ニ適フトハ何ヲ以テ言フカトイフニ、『易』ノ謙ノ卦ノ彖傳ニ曰ハク、『天道ハ盈ルヲ虧ギテ謙ニ益ス、地道ハ盈ルヲ變ジテ謙ニ流ル、鬼神ハ盈ルヲ害シテ謙ニ福ス人道ハ盈ルヲ惡ンデ謙ヲ好ム』(註二)ト、又同ジク節ノ卦ノ彖傳ニ曰ハク、『天地節アリテ四時成ル節スルニ制度ヲ以テシテ、財ヲ傷ラズ民ヲ害ハズ』(註三)ト、蓋シ天地自然ノ現象ヲ觀ルニ、其ノ活動ハ決シテ制限ナク自由ナルモノニアラズ、其間ニ夫々一定ノ節度アリテ相侵サズ、爲メニ此ノ如キ秩序アル自然現象ヲ呈スルコトヲ得テ居ルノデアル。人モ亦其ノ通りニテ、若シ人々ヲシテ其ノ欲望ヲ際限ナク發達セシメ、之ヲ自由ニ活動セシメシカ、放佚修肆ノ極財物ヲ暴殄シ、擠排吞噬ノ餘民生ヲ傷害スルノ結果ニ終ルモノトスル。是レガ欲望制限ガ自然ノ法則ニ合致スル所以ノ説明デアル。

既ニ欲望制限ガ自然ノ法則ニ適合スルモノトスルナラバ、欲望ヲ制限スルコト夫自身モ亦一ノ道德デアルト云フコトニナルノデアル。孔子ガ『己ニ克チ禮ニ復ルヲ仁ト爲ス』(註四)ト言ヘル、其ノ己ニ克ツトハ個我ニ打勝チ欲望ヲ抑ユルコトニ外ナラズシテ、其レガ即チ仁ト云フ道德ノ一部ヲ形成スルコトトナルノデアル。宋ノ程明道ハ一層明晰ナル語ヲ以テ之ヲ言ヒ表ハシテ居ル。曰ハク『飢エテ食ヒ渴シテ飲ミ、冬ハ裘ヲキ夏ハ葛ヲキル、若シ些シノ私客ノ心在ルヲ致サバ、便

チ是レ天職ヲ廢スルナリ』(註五)ト。其ノ意ハ、飲食衣服各當然ノ限度アリ、欲望ヲ制限シテ其ノ限度ヲ過ゴサザルハ、即チ吾人ガ天賦ノ職分ヲ盡ス所以デアルトスルノデアル。

(註二) 先王之制禮樂也、非以極口腹耳目之欲也、將以教民平好惡、而反人道之正也、人生而靜、天之性也、感於物而動、性之欲也、物至而知、然後好惡形焉、好惡無節於內、知誘於外、不能反躬、天理滅矣、夫物之感人無窮、而人之好惡無節、則是物至、而人化物也、人化物也者、滅天理而窮人欲者也、(『禮記』樂記)

(註三) 天道虧盈而益謙、地道變盈而流謙、鬼神害盈而福謙、人道惡盈而好謙、(『易』謙卦彖傳)

(註四) 天地節而四時成、節以制度、不傷財不害民、(『易』節卦象傳)

(註五) 克己復禮爲仁、(『論語』顏淵篇)

(註六) 飢食渴飲、冬裘夏葛、若致些私吝心在、便是廢天職、(『遺書』)

四 以上ハ普通ニ儒家ノ正統學派ト目セラルモノノ思想ニ就イテ説述シタノザアルガ、茲ニ同ジク儒家ノ中ニ在リテ、從來別派ノ如ク取扱ハレテ居ル荀子ノ思想ニ就イテ一言シテ置カウト思フ。荀子ガ欲望制限論者タル點ニ於イテハ、固ヨリ一般儒家ト敢テ擇ブ所ハナイガ、其ノ道德ニ關スル根本思想ガ全然前者ト趣ヲ異ニスルヲ以テ、從ツテ其ノ欲望論モ餘程特殊ナル立脚地ニ立ツテ居ルノデアル。荀子ハ一般儒家ノ性善説ヲ取ルニ對シ、性惡論ヲ唱道シテ居ル。謂ヘラク『人ノ性ハ惡、其ノ善ナル者ハ僞也』(註二)ト。コニ僞トイフハ人爲トイフ意味デアル。即チ其ノ意ハ吾人ガ自然ニ道德性ヲ享ケ得テ居ルト云フ如キ思想ハ誤謬デアツテ、人ノ本性ハ元來惡デアルモノヲ、聖人ガ出テ禮義道德ヲ作爲シ、本性ヲ矯メテ善ヲナサシムルモノトスルノデアル。荀子ハ人性ノ惡ナル證據トシテ、人ガ本來廢クナキノ欲望ヲ有スルコトヲ其ノ書中到處ニ反覆シ

テ居ル。例ヘバ『人ノ情、食ハ芻豢有ランコトヲ欲シ、衣ハ文繡有ランコトヲ欲シ、行クニ輿馬有ランコトヲ欲シ、又夫ノ餘財蓄積ノ富ヲ欲ス、然リ而シテ窮年累世足ルコトヲ知ラザルハ、是レ人ノ情也』(註ニト言ヘル如キハソレデアル。一般ノ儒家ニ在リテハ、欲望ヲ以テ夫自身ニ自ラ限度アルモノトハ認メテ居ラヌヤウデアルガ、然シ欲望ノ際限ナキモノナルコトヲ多クハ明言シテ居ラナイ。此ノ點ニ於イテ荀子ハ極メテ明確ニ之ヲ言ヒ表シテ居ル。斯カル立場ニ立ツテ居ルガ爲メニ、宋鉅トイフ者ガ人性モト寡欲ニシテ多欲デナイ、故ニ唯ダ其ノ欲スル所ニ放任セバ天下自ラ治マルトイフ如キ説ヲ立テテ居ルニ對シテ、極力攻撃ヲ加ヘ、『古ノ人ハ人ノ情ヲ以テ欲多クシテ欲寡カラズト爲ス、故ニ賞スルニ富厚ヲ以テシテ、罰スルニ殺損ヲ以テスルナリ、是レ百王ノ同ジキ所也、中略今子宋子、人ノ情ヲ以テ欲寡クシテ欲多カラズト爲ス、然ラバ則チ先王人ノ欲セザル所ノ者ヲ以テ賞シ、人ノ欲スル所ノ者ヲ以テ罰スルカ、亂焉ヨリ大ナルハ莫シ』(註ニト言ツテ居ル。

扱テ此ノ如ク人間ノ欲望ハ屢クルコトヲ知ラヌモノデアル。若シ人間ヲ自然ノ儘ニ放置シテ其ノ屢クナキ欲望ヲ追求セシメンカ、放佚淫亂ノ風起リ、爭奪殘賊ノ俗行ハレ、人間ノ社會的生活ハ忽チ危殆ニ瀕スルニ至ルノデアル。是ニ於テカ道德ノ必要ガ生ズルノデアツテ、聖人ノ禮義ヲ作爲スルモ、畢竟此ノ必要ニ本ヅク便宜ノ手段ニ外ナラストイフガ荀子ノ考デアル。乃曰ハク、『禮ハ何ニ起ルヤ、曰ハク人生レナガラニシテ欲有リ、欲シテ得ザレバ則チ求ムルコト無キ能ハズ求メテ度量分界無ケレバ則チ爭ハザルコト能ハズ、爭ヘバ則チ亂ル、亂ルレバ則チ窮ス、先王其

ノ亂ヲ惡ム、故ニ禮義ヲ制シテ以テ之ヲ分チ、以テ人ノ欲ヲ養ヒ、人ノ求メヲ給ス、欲必ズ物ヲ窮メズ、物必ズ欲ヲ屈サズ、兩者相持シテ長ゼシム、是レ禮ノ起ル所也』(註四)ト。即チ各人ノ欲望ニ分界ヲ立テ檢束ヲ加ヘテ、互ニ擠排シ侵犯スルヲ得ザラシムルガ、聖人禮ヲ制スルノ本意デアルトスル。但シ荀子ハ素ヨリ欲望ヲ絶對ニ禁止セントスルモノデ無イカラ、一方ニ或範圍ヲ定メテ其ノ範圍外ニ逸出スルヲ許サザルト同時ニ、他方ニ其ノ範圍内ニ於イテハ十分ニ欲望ヲ遂ゲシムル主旨デアツテ、其レニ就イテハ『禮ハ養ナリ、君子既ニ其ノ養ヲ得、又其ノ別ヲ好ム』(註五)ナドト言ツテ居ル。是レニ由ツテ之ヲ觀ルニ、荀子ノ謂フ所ノ道德ノ範圍ハ、一般儒家ノソレトハ大ニ異ツテ來タノデアル。即チ一般儒家ニ在リテハ欲望制限モ道德ノ一部分ニハ加ヘタガ、道德ノ主要ナル部分ハソコニ在ルノデハ無イ、然ルニ荀子ノ道德ハ即チ欲望制限ノ手段ニ外ナラヌモノデアツテ、其レ以外ニハ殆ド道德ヲ認メザルモノノヤウデアル。ソコデ荀子ハ又『君子ハ其ノ道ヲ得ルヲ樂シミ、小人ハ其ノ欲ヲ得ルヲ樂シム、道ヲ以テ欲ヲ制スレバ樂ンデ亂レズ、欲ヲ以テ道ヲ忘ルレバ惑ウテ樂マズ』(註六)トモ言ツテ居ル。

扱テココニ『君子ハ其ノ道ヲ得ルヲ樂シム』ト言ツテ居ルガ、人ガ元來性惡多欲ナラバ、其ノ本性タル欲望ヲ棄テテ人爲的ノ道德ニ從フコトヲ、何デ樂シムコトガ出來ルカト云フニ、荀子ハ之ヲ説明シテ、『夫レ薄ハ厚ヲ願ヒ、惡ハ美ヲ顯ヒ、狹ハ廣ヲ願ヒ、貧ハ富ヲ願ヒ、賤ハ貴ヲ願フ、苟モ之レガ中ニ無キ者ハ、必ズ外ニ求ム、故ニ富メバ財ヲ願ハズ、貴ケレバ勢ヲ願ハズ、苟モ之レガ中ニ有ル者ハ、必ズ外ニ求メズ、此ヲ用ツテ之ヲ觀ルニ、人ノ善ヲ爲サント欲スルハ、性



惡ナルガ爲メ也』(註七) ト言ツテ居ル。要スルニ人ノ善ヲ樂ムモ、亦タ自己ノ有セザル者ヲ獲得セ  
ントスル人間固有ノ欲望ノ一表現タルニ外ナラズト觀ルノデアアル。

荀子ノ書中ニハ前後矛盾スル如キ說モ多少無キニ非ザルモ、荀子ノ欲望ニ對スル見解ハ大體以  
上ノ如キモノト見テ宜カラウト思フ。

(註一) 人之性惡、其善者僞也、(『荀子』性惡篇)

(註二) 人之情、食欲有羽翼、衣欲有文繡、行欲有輿馬、又欲夫餘財蓄積之富也、然而窮年累世不知足、是人之情也、(同樂辱篇)

(註三) 古之人……以人之情、爲欲多而不欲寡、故賞以富厚、而罰以殺損也、是百王之所同也、……今子宋子、以人之情、爲  
欲寡而不欲多、然則先王以人之所不欲者賞、以人之所欲者罰邪、亂莫大焉、(同正論篇)

(註四) 禮起於何也、曰人生而有欲、欲而不得、則不能無求、求而無度量分界、則不能不爭、爭則亂、亂則窮、先王惡其亂也  
故制禮義以分之、以養人之欲、給人之求、使欲必不窮乎物、物必不屈於欲、兩者相持而長、是禮之所起也、(同禮論篇)

(註五) 禮者養也、君子既得其養、又好其別、(同禮論篇)

(註六) 君子樂得其道、小人樂得其欲、以道制欲、則樂而不亂、以欲忘道、則惑而不樂、(同樂論篇)

(註七) 夫薄願厚、惡願美、狹願廣、貧願富、賤願貴、苟無之中者、必求於外、故富而不顧財、貴而不顧勢、苟有之中者、必  
不求於外、用此觀之、人之欲爲善者、爲性惡也、(同性惡篇)